

ともしび

第49号

編集発行

富山県立八尾高等学校
教育情報部・図書委員会
富山市八尾町福島 213
TEL 076-454-2205

令和2年3月2日

スマホ時代の読書

教頭 長島 伸

学生時代は都内で過ごし、電車通学していましたが、あるカルチャーショックがありました。それは、電車のなかで、本を読んでいる人が多いということです。学生をはじめ、サラリーマンなど多くの乗客が、目的地まで時間を惜しんで本を精読している姿には、驚きを感じました。当時、日本は好景気(バブル経済)で、経済的にアメリカに追いつこうとしている状況にあり、この奇跡的な経済成長は寸暇を惜しんで本を読む向上心のある人々が支えていると密かに考えました。

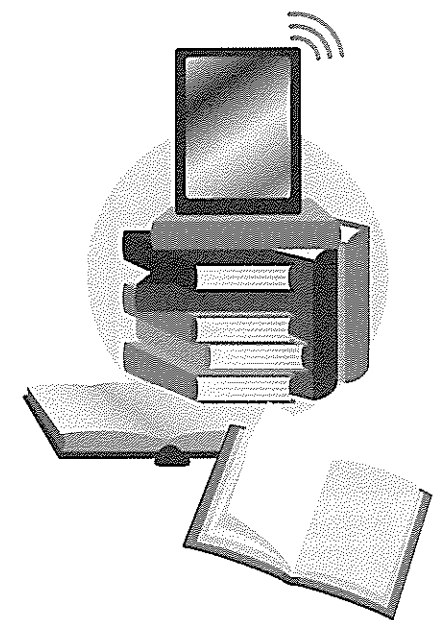
その頃から30年以上経ち、都内の電車内は、本を読む人は少なく、多くがスマホを見ています。スマホも活字を読む(ゲームは論外)には変わりなく、大変便利な情報機器であるため、当初はこの変化は肯定的に考えていました。ただ、知識社会が到来しているなか、このまま本を読む人が減っていくことでよいのかという疑問、不安が残りました。

今は「日本人は年間に読む本は12、13冊ぐらい」といわれています。月1冊程度ということで、便利なスマホに時間が奪われているのかもしれませんが、スマホと読書では、「情報の質」が違うように感じられます。全体の傾向として、スマホの情報は「流れ去っていくもの」が多く、本人の知的ストック(蓄積)になるものが少ないように思います。一方、読書は絞れた人のみ出版でき、書いている人の知識が濃縮されており、内容が深く、知的価値が高いのでは

はないでしょうか。例えて言うならば、同じ成分であるが、石炭とダイヤモンドのように大きな違いがあるということかもしれません。

決してスマホを否定しているのではありません。スマホは簡単に情報を調べることができ、百科事典の代わりになっています。また、スマホを利用して電子書籍を読むことができ、読書と変わりありません。ただ、「形ある本をじっくり読む、良書を繰り返し読む」という価値観も悪くはないと感じます。大切なところを赤線で引きながら、手元に置き、必要ならまた読み直すということが読書の楽しみであり、人生の智慧を得ることにもなります。

時代に逆らったことを述べましたが、スマホ時代だからこそ、読書の価値を見直してもよいのではないかと思います。



「航空管制業務のあれこれ」



❖ 講師 国土交通省大阪航空局富山空港出張所
前任航空管制官 堀江 正史 先生

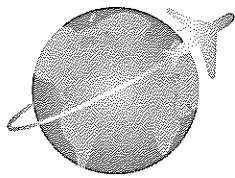
❖ 期日 令和元年 11月 15日 (金) 15:50 ~ 17:00

❖ 場所 井泉館 1F 研修室



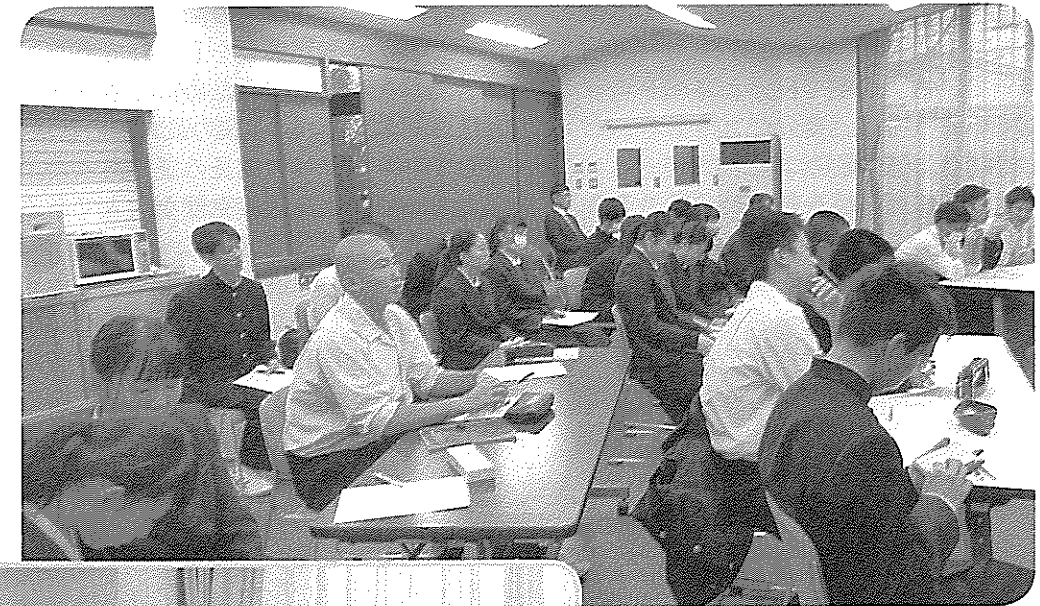
内容

航空管制官とはどのような職業で、どのような役割を果たしているのかを教えてくださいました。
また、仕事のやりがいや、辛いこと、航空管制官になるためには何が必要かなどを聞きました。航空管制官の話だけでなく、空港についてや、管制官の専門用語なども教えてくださいました。興味深いひとときを過ごしました。



感想

- 全国 2000 人の管制官のうち、女性が 600 人いることを知り、思ったより多くて驚いた。
- 転勤するたびに試験があるのは大変だと思った。
- 交代しながらとはいえ、365 日 24 時間体制の仕事は、人の命を預かる大事な役目も果たし、体力的にも精神的にも大変な仕事だと思った。
- 航空管制官になるまでにたくさん勉強、実習をしなければいけないが、その分乗客の笑顔を見ることが出来るやりがいがある仕事だと思った。
- 飛行機に関する仕事といたらパイロットが思い浮かぶけれど、こういった面からも支えられていることがわかり、勉強になった。
- 厳しい試験や訓練をやりとげたからこそ、飛行機を利用する人たちの命を担えるのだと思った。
- パイロットに指示を出すときは英語を使うということを知って、改めて本当に英語は必要なのだと感じた。
- 先生が管制官の仕事、「見えなくてもやらないといけない仕事」とおっしゃったのが印象的だった。



校内読書感想文コンクール

校内読書感想文コンクール(第65回青少年読書感想文全国コンクール校内選考)

★2学年最優秀賞 23H 中田あかり ★1学年最優秀賞 13H 西村 千陽



「少女の成長から 学んだこと」

(『チョコレートで朝食を』を読んで)

23H 中田あかり

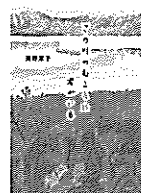
「おとなになることの難しさが生み出す宝石。」裏表紙にあったこの言葉に惹かれた。この本は、アメリカの美少女、コートニーが、ハリウッドとニューヨークの上流階級を舞台に、恋愛や友情、徹夜で繰り広げられるセレブなパーティという日々の中で大人になっていく物語である。私とコートニーは同い年で、物語の中で自分とコートニーを何度も重ねていくうちに、自分がコートニーと一緒に成長していくような感覚になった。

コートニーは母親に不信感を抱いた6歳のころから自分の「子供らしさ」を胸に閉じ込め、何でも自分でできる大人の女性になろうと努力する。コートニーがプールサイドで遊ぶ同い年の男の子と一緒に遊びたいのだが自分で自分を止めてしまうという場面があった。私は中学生の頃、美術で絵を描く時、本当は描きたいイメージがあるのだがそれを描くことは自分の頭の中を全てさらけ出す行為のような気がして、結局何も描けずに友達に手伝ってもらってようやく絵を仕上げたことがあった。この場面を読んだとき、自分がいままで必死に隠していた本心を一度でも外に出してしまえば、自分の弱さが知られてしまうのではないかと、自分が今まで守ってきた自分が壊れてしまうのではないかと、という何ともいえない不安と、コートニーと中学生の頃の自分に共通する恐怖心が感じられた。そんな、今まで人に絶対に自分の悩みや弱い部分を見せなかったコートニーは初めて、父のような存在のアルに寂しさと将来への不安を打ち明ける。「ひとりでこんなことに抵抗しなきゃならないのが怖いよ」という言葉から、いつの時代のティーンエイジャーも孤独と自分への不信感と戦い、何度も悩みながら大人になるのだと感じた。いつ壊れてもおかしくない不安定な自分を不器用に守ろうとする気持ちや、急に襲ってくるまわりの全てのものから切り離されているような孤独など、触れるもの全てを吸収してしまう10代の

私たちにしか分からない繊細な気持ちが丁寧に描かれている故に、この小説の中でのコートニーと自分を自然に重ねてしまうのだろう。

この本のラストシーンで待っているのはコートニーの親友の自殺とそこから見えてくる家族の愛である。親友の自殺に責任を感じて部屋にこもりきりのコートニーの生活を元に戻すため、コートニーの母親で女優のソンドラは、プライドを捨て、つてをたどって仕事を探し始める。ソンドラは友人に「クレイジー」と呼ばれるような人で、仕事がなくともプライドの高さ故に自分から仕事を探すことをせず、借金をし続けていた。そんなソンドラが最後には娘のために仕事を始めたことはコートニーへの愛情の最大限の表現で在り、母としてのソンドラの成長の証であった。子どもの私たちからすれば親は完璧な大人であるが、親もまだ大人になりきれないところがあって、ソンドラのようにお酒に逃げたくなるような弱い部分もあるかもしれない。だからこそ私たちは家族として、尊敬し合いながら支え合う必要があるのだと実感できた。これまでは自分の親を信頼しきって多く頼ってきたが、これからは親のことをひとりの人間として尊重し、少しでも自立して親を支えられるようになりたい。

私がこの小説を楽しめたのは、ただコートニーに共感できる部分が多かったからではなく、コートニーの人柄に惹かれ、周りの刺激的な出来事に引きずり込まれながら変化していく彼女に魅了されていったからである。コートニーが親友を守るために「正しいことだとわかっているなら何でもできるわ。」と言った場面では、コートニーが親友を大切に思う気持ちと、自分の正義を貫こうとする強い意志が感じられた。私もコートニーのように自分からいろいろなことを経験し、その中で多くのことを吸収して、大切な存在のために強くなるような芯のある女性になりたい。そして、自分が大人になっても孤独や不信感、色々な感情やまわりの全てに振り回された、忙しくても輝いている10代の日々を忘れたくない。「おとなになることの難しさが生み出す宝石」を大切に持ち続けたいと思う。



「寄り添う」

(『この川の向こうに君がいる』を読んで)

13H 西村 千陽

令和になった今でもずっとあの日のことを考えている人がいるだろう。この本は東日本大震災を経験した女子高校生の物語だ。

私がこの本を手にとった理由は、図書室の目立つところであって、私が入っている部でもある吹奏楽部とも関わっている物語ということを知ったからという単純で軽い理由だった。本を読み進めていけばいくほど、自分がほんの軽い気持ちで選んだことを恥じた。

東日本大震災。それは今から約8年前のことである。この震災によって約16,000人の死者、約2,500人の行方不明者が出た。今なお全国には避難生活を余儀なくさせられている人がいる。この物語の主人公である梨乃は被災者であり、兄を震災で亡くしている。高校に入学してから、梨乃は「かわいそうな被災者」というレッテルをはられて生きていくことが嫌で被災者であることは周囲の人に隠している。もう一方で遼という梨乃の同学年の男子がいる。遼も被災者であるが、梨乃とは正反対で周囲から同情されたくない、と思い、あえて被災者であることを公表し、明るくふるまっている。二人とも高校で吹奏楽部に入ることとなる。

私がこの物語で一番印象に残っているのは「10人いれば10の経験がある。けど、なんていうか、一括りにされることもあるよな。」という言葉である。梨乃と遼という被災者である二人だけを見ても被害の大きさ、心の傷、今の状況は全然ちがっている。それを「被災者」という一言でみんな一括りにすることは出来ないと思う。

物語の中盤で梨乃のクラスメイトに梨乃が被災者であることが知られてしまう。クラスメイトの中に美湖という女子がいる。美湖は親切な性格でクラスでも明るく、中心的な存在である。しかし、梨乃はその美湖の「被災者」に対しての親切でとても優しいという態度が苦手だと感じている。私はこの時の二人の気持ちを考えたときに、もし、自分がこの二人だったらどうかと考えさせられた。梨乃の気持ちを考えると、今まで隠してきた被災者であるということ、クラスメイトに情報が広がっていったらとても怖いだろうと思った。そしてさらにとっても親切で優しく「被災者」として友達に接しられたらどうだろう。私はそれは嬉しく

ないと思う。梨乃は被災者としてではなく、自分を一人の人間として見て、接してほしいと願っていると思う。しかし、美湖の立場になってみると、そんな接し方もまったく悪気はないと感じた。私はこの場面から人の心に寄り添うことへの難しさを痛感した。きっと梨乃は普通に接してほしいはずだ。しかしその普通も、今の私にはできる気がしない。仮に今、学校に被災者の人が来たらと考えると、とても怖いような悔しいような気持ちになる。それは自分がその人の心をよけいに傷つけてしまうと思ったからだ。被災者とは一括りに言えなく、一人一人の心に寄り添うことが大切だと改めて思い、同時にその難しさも知れた大事な場面だった。

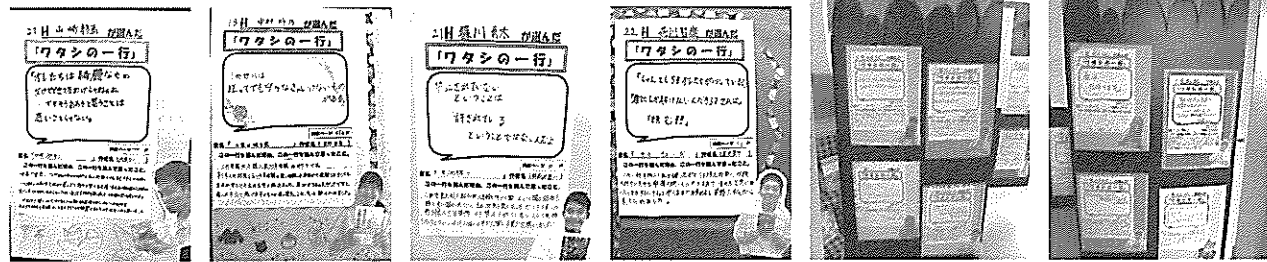
この本の作者である濱野京子氏は熊本県出身だそう。熊本県と聞いて私はすぐに豪雨が原因での土砂崩れのニュースが頭をよぎった。このとき、作者はどう思ったのだろうか。私はこの物語は登場人物のセリフが一言一言重く心に残っている。だから作者はとてもし登場人物一人一人に寄り添っていたのではないかと思う。そんな筆者に関わりのある熊本県で災害が原因で大きな被害が出てしまったと聞けば相当のショックを受けただろう。私はどんなニュースでも死者が出れば悲しい気持ちになるけれど、その中でも自然災害は、人間の手によって止めることは難しいので、その点残酷だと思う。

私はこの本を読んで、自分を理解してくれる人の存在がとても大切だと感じた。自分をレンズ越しに見たりせず、何のフィルターもかけずに自分に接してくれる人だ。また、改めて東日本大震災を忘れてはいけないと強く思った。たくさん人の命と幸せを一瞬にして飲み込んだ津波は本当に恐ろしいと感じた。日本中のどのくらいの人が深い悲しみ、悔しさ、怒りを覚えたことだろう。そのことを考えると重くて苦しくどうしようもない気持ちが生まれてしまう。そして、どのくらいの人が今、苦しんでいる人の力になれたのだろうか。8年たった今でも苦しんでいる人がいるし、8年たった今だからこそ、いろいろなことに悩みや生きづらさを感じている人がいると思う。私はきれいごととかを一切なくして本当の意味で優しく、人に寄り添える人間になりたいと思った。いろいろなことが風化していく中、この本を読んで改めて大切なことに気づかされた気がして、読んで良かったと心から思う。私の心の中の思いは風化することはないだろう。

高啼祭

「私の一行」

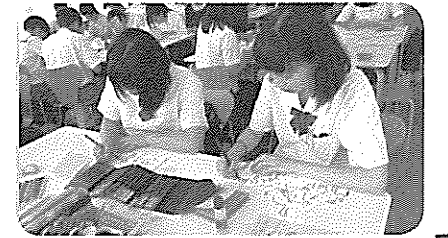
図書委員会では、今までに読んだ本の中で、心に残った一行を紹介するコーナーを作りました。私はまず、「自分が今まで読んできた本の中で、一番心を動かされた本は何だろう」と考えました。そのとき、選ぶ鍵になったのは、その本に書いてあった心に刺さる一行でした。この一行は、今の自分を変えようと思わせてくれるぐらいすてきな一行でした。このコーナーを作って、本には魔法のような言葉がたくさん詰まっていることに気づくことができました。



図書委員会の活動



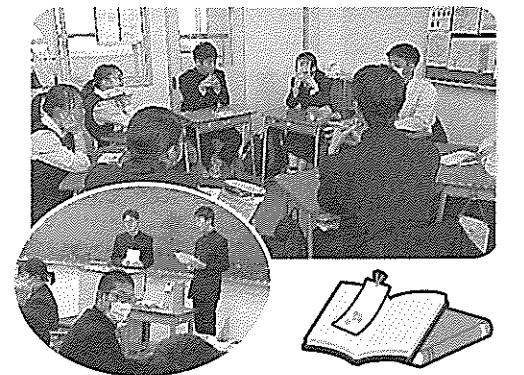
8月2日(金)大島絵本館にて、図書委員研修会に参加しました。各校の委員会活動報告を聞いたりとびだす絵本を作るワークショップに参加したり、充実した時間を過ごしました。



読書会

～八尾高校の読書会は、「全員で同じ本を読む読書会」か、自分のおすすめ本を紹介し合う「ピブリオバトル」のどちらかを各クラスで選んでもらい実施しています。～

私のクラスは同じ物語を全員で読む読書会を実施しました。前日の委員会でクラス全員の班分けや机の配置、どんな本を読んでどのタイミングで進行を進めるかを考えてから読書会をしました。当日の読書会では多くの生徒が静かに本を読んでいた。感想の紙を配るのが少し早くなったり、感想の記入に少し時間がかかったりしましたが、ほぼ無事に終わることができてよかったです。



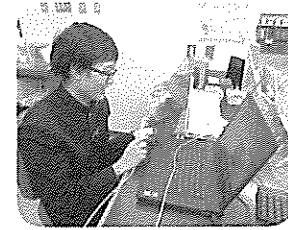
「POP」

自分の好きな本を選んで、絵を描いたり紹介文を書くPOPづくりをしたりしました。図書委員が紹介したい本をそれぞれ選んで書きました。紹介したい本はたくさんあり、とても迷いました。また、その本の一部を抜粋し、それを要約するのとても難しかったです。高啼祭当日には、たくさんの訪問者の方がPOPを視ていかれその本に興味を持っておられたように見えました。私が紹介した本が少しでもたくさんの人に読んでいただけたら私は嬉しいです。



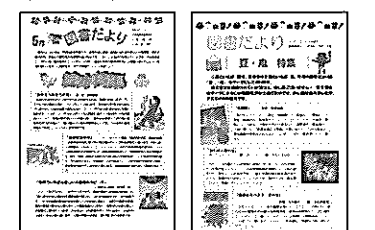
カウンター当番

カウンター当番。それは図書委員の常時業務であり、とても大切な仕事だ。本の貸し出し、予約受付という一見簡単な仕事に思われるが、この一つ一つが重要なものであり、本を管理するものとしてミスは許されないものだ。また、空いている時間に返却された本をもともとあった本棚に返す、新聞に掲載されている天声人語をコピーし保管しておくということも仕事のひとつだ。最初はわからないことばかりでいろいろ大変だったが、たくさんの本に囲まれた中で仕事ができるこのカウンター当番はとてもやりがいがあり楽しい仕事だと思う。



図書だより作成

今年の図書だよりは短編集、受賞歴のある本、進路に役立つ本などをテーマにし、特集しました。短編集の特集では「54字の物語」や「空想科学読本」を紹介し、時間がなくても本を読みたいという人にオススメな本として紹介しました。進路に役立つ本の特集では進路について悩んでいる人にオススメな本を紹介しました。



図書委員が選んだ各分野オススメの本

0分野

ギネス世界記録2017
クレイグ・グレンディ
049.1グ
世界一を知ると、世界が広がる。地球上にあふれる動物、建物、機械、そして人間の世界一の記録。本当にすごい記録や面白い記録など、たくさんのギネス世界記録が紹介されています。是非ギネス記録に挑戦してみてください。

1分野

面白すぎて時間を忘れる心理テストHYPER
中嶋 真澄
140.49ナ
この本には、50個の心理テストが書いてあります。潜在能力や人生観、恋人選びから理想の相手まで全部がわかっちゃう！すべてが時間を忘れるくらいとても面白い本です。本が苦手な人でも、気軽に楽しめる一冊です。

2分野

読むだけですっきりわかる日本史
後藤 武士
210.1ゴ
日本史の授業で習う単語がわかりやすく解説されており、日本の歴史について深く知ることができる本です。人物の印象が残りやすい小話もあり、普段の授業と組み合わせると、より一層日本史がわかりやすくなります。

3分野

社会学入門—人間と社会の未来
見田 宗介
361ミ
社会学とはどのようなものかを解説し、これからの人の未来について書かれた本です。この本で「人とは何か？」という考えに触れることができ、社会学部を目指す人にとっても、そうでない人にとっても、新しい発見をもたらしてくれます。

4分野

バッタを倒しにアフリカへ
前野ウルト浩太郎
486.4マ
バッタ研究者だった前野さんは、安定した職もない自分の人生の一発逆転を狙おうと思立って、一路アフリカのモーリタニアへ。数年に一度大発生し、農作物に大きな被害を与えているというサバクトビバッタの研究に向かった。

5分野

日本名城百選
村田 修三
521.82ム
適切な説明文とグラビアで、城の様子が分り易く説明されていて、城跡の魅力が非常に良く伝えてくれます。すべての城について示されている縄張り図もいっです。この本を手にしたなら、実際に現地に行きたくなること請け合いです。

6分野

ディズニー サービスの極み教えてくれたこと
鎌田 洋
689.2カ
ディズニーランドのキャストの“想像を超えるゲスト対応”について書かれています。なぜキャストは常に笑顔でゲストに対応し続けるのか。その理由を知ることができる4つの物語が収められています。

7分野

「怖い絵」で人間を読む
中野 京子
723ナ
世界にはたくさんの絵画があり、美術館で何気なく鑑賞している絵画には、恐怖と緑がなさそうに見えて実は怖い人間ドラマがあったりします。絵画は「見る」ものではなく「読む」ものだということを教えてください。

8分野

なぜ国語をまなぶのか
村上 慎一
810ム
「日本語は話せるのに、どうして今さら国語を勉強しないといけないの?」「古文や漢文を学ぶことに、何の意味があるの?」...。国語が苦手な人から、よりよく学びたい得意な人まで、国語を学ぶ意義がわかります。

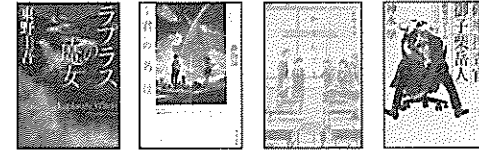
9分野

過ぎ去りし王国の城
宮部みゆき
913.6ミ
古城のデッサンを拾った中学3年の尾垣真と美術部員の珠美は、分身を書き込むと絵の中に入れるという事を知った。冒険するうちに10年前の事件が関係している事がわかる。心にしみこむ祈りの物語です。

全学年貸出ランキング

1位

ラプラスの魔女 東野 圭吾 5冊
君の名は。 新海 誠 5冊
か「く」「し」「ご」「と」「」住野 よる 5冊
確率捜査官御子柴岳人：密室のゲーム 神永 学 5冊



学年別貸出冊数 1位

1学年	1組	229冊
2学年	4組	67冊
3学年	2組	64冊

学年別貸出ランキング

1学年

1位 君の名は。 新海 誠 5冊
か「く」「し」「ご」「と」「」住野 よる 5冊
確率捜査官御子柴岳人：密室のゲーム 神永 学 5冊

2学年

1位 オーバーロード1 丸山くがね 3冊
2位 氷菓 米澤 穂信 2冊
少女 湊 かなえ 2冊
他7冊

3学年

1位 小論文これだけ！
短大・推薦入試から難関校受験まで 樋口 裕一 4冊
2位 60分でわかる！
AI医療&ヘルスケア最前線 三津村直貴 3冊
3位 QO! なんてなんだろう
-医療とケアの生命倫理- 小林亜津子 2冊
他18冊

令和元年度 図書委員会の1年間の活動

- 4月 新入生図書館オリエンテーション
生徒図書委員会
- 7月 蔵書点検
高啼祭「私の一行」「POP」作成開始
生徒図書委員会
- 8月 県高校生図書委員研修会・大島絵本館「絵本づくり」
- 9月 高啼祭「私の一行」「POP」展示
- 11月 第1回教養講座「航空管制業務のあれこれ」
- 12月 第2学年冬休み課題「小論文対策本・分野別読書」の一覧展示
「図書委員会「ともしび」第49号編集委員会
- 1月 「ともしび」作成
- 3月 「ともしび」49号発行

※毎月 図書日より発行 月毎の飾りつけ
※毎日 カウンター当番 書架整理
※各クラス HR 読書会・ミニビブリオバトルの準備・進行

令和元年度 図書委員会

(◎は委員長・○は副委員長)

11H 大澤 梨乃	増山 紗悠
12H 坂本 陽香	末永 亜咲
13H 中村 時乃	谷内 瑞希
14H 野村友希乃	藤井 美来
21H 山崎 柊馬◎(後)	篠川 勇太○(後)
22H 笹川 智康	村井 哉太
23H 吉田 遥喜	丸田 怜以
24H 佐藤 来実	村上 昂暉
31H 高見 真依◎(前)	黒田 陽暉
32H 柴 愛莉○(前)	平瀬さくら
33H 坂本 亜依	吉野 雪乃
34H 三輪 莞奈	横井 優花

編集後記

今年は、3年に一度の高啼祭が開催されるということもあり、図書館の飾り付けに力を入れました。高啼祭では図書館に飾りつける「BOOK・BOOK・BOOK」をイメージした垂れ幕を作成しました。また、年に一度行っている蔵書点検では、今年度は新しい機材が導入され少々使用方法がわからない部分があったものの、前年度にまして素早く終了させることができました。

更に今年度から新しく担当制書架整理が図書委員の活動に追加されました。自分の担当の棚を決め、その棚の本の並び順を整えることで図書館の利用者に本をより見分けやすく、借りやすくしました。並び順が整っているため見栄えも良く心地よい物になっていると思います。このともしびは一年の集大成です、これを読んで図書委員の活動を皆さんに知ってもらえると嬉しいです。

後期図書委員長 山崎 柊馬